

前芝中学校通信

～校長室の窓から～

豊橋市立前芝中学校

第57号

H27.11.4

文化の秋に

～一人一人の輝きで前芝中を一つに～



文化祭 10月25日(日)

「星空、みんなが輝く魔法の国」

文化祭には、多くの保護者や地域の方にご来校いただき、ありがとうございました。秋の凜とした夜空に輝く星のように、生徒一人一人が持ち味を生かし、ステージ上で輝く姿をご覧いただけたでしょうか。生徒会役員によるオープニング、各学年の行事や総合学習の発表、英語スピーチ、午後のコント・ダンス・バンドなど、積み重ねた練習と入念なりハーサルの成果で、出演者と観客が一体となった素晴らしいものとなりました。学級企画にも小学生や地域の方がご参加いただき、生徒と笑顔で会話を交わす姿が見られました。PTA企画喫茶「どうたくん」は、PTA役員や文化部のおもてなしのおかげで大盛況でした。ご協力ありがとうございました。



合唱コンクール・ミニコンサート

11月6日(金) 10時30分開演

前芝中学校ならではの、小学5・6年生を招いての伝統の合唱コンクール。今年度は、「音の響きが良い」と、本校出身でオペラ歌手の松下雅人氏よりお墨付きをいただいた新体育館で開催いたします。

前半は学年対抗のコンクールに加え、全校合唱の「いのちの歌」「ふるさと」と、小学6年・中学2年の合唱も披露します。

後半のミニコンサートでは、気仙沼在住のシンガーソングライター熊谷育美さんよりピアノの弾き語り、震災復興の様子や防災に関するお話をさせていただきます。

平日ではありますが、多くの保護者の方、地域の方のご来場を心よりお待ちしております。なお、当日は運動場西南の出入り口を通行可能にいただき、運動場への駐車ができるようにしました。徐行運転をお願いいたします。また、駐輪場は部室棟前です。



造バラ会場で、3・4年生徒が製作したエプロンドレス等の販売と、作品展示をしました。(10.18)



校区市民館芸能・作品発表会に、3年生の造バラ作品と加藤用務員さんの作品を出品しました。(11.1)

熊谷育美さんの紹介です。育美さんは復興支援ソング『花は咲く』プロジェクトに参加しています。

(第57号 裏面)

シンガーソングライター

くまがいくみ
熊谷育美さん



曲目

- 『夢のつづきを』
- 『雲の遥か』
- 『生きて』
- 『僕らの声』

プロフィール

1985年5月24日、宮城県気仙沼市生まれ、在住のシンガーソングライター。自然豊かな美しいまちで、物心ついた時からピアノに触れ、中学時代には日々の思いを曲にするようになる。

2009年11月メジャーデビュー。

2011年4月4枚目のシングル「雲の遥か」をリリース。この曲は2011年3月10日に完成、翌3月11日、彼女は地元気仙沼で大地震と大津波、そして大火災に遭遇した。かろうじて高台の自宅に避難したが、大好きな街のことや犠牲になった多くの方々のことを思うと、歌うこともピアノを弾くこともできない日々が続いた。しかし、地元の人たちの応援もあり、気仙沼の風景を封じ込めてきた自分の作品をうたい続けることが、自分の役割と強く感じるようになり音楽活動を再開。

また、被災地だけではなく全国各地から「雲の遥か」は自分たちにとっての応援歌であり心のよりどころになっていますという言葉が、熊谷育美をさらに奮い立たせることにもなり、アルバム制作へと向かわせた。現在は、コンサートやライブ活動をはじめ、ラジオ・TV番組への出演、数々の映画の主題歌の作成なども手がけるなど、活躍の幅を広げている。

中日新聞 (7/30掲載)

2015年(平成27年)7月30日(木曜)

気仙沼在住の歌手熊谷育美さんと、一緒に歌う高校生ら＝豊橋市公会堂で



気仙沼の友 招き語らう

東日本大震災で被災した宮城県気仙沼市の高校生たち十人が豊橋市に招かれ、二十九日、豊橋市公会堂で、東三河の高校生たちと対談した。気仙沼の高校生たちは、当日の瞬間や避難所生活など被災体験を話し、東三河の高校生は三十日から現地入りして実践するボランティア活動のことを学んだ。(小原健太)

被災地入り前に 豊橋で東三河の高校生

主催したのは豊橋東口翔君(こし)は避難所になった近所の寺に家族で身を寄せた。五十人ほどと初めて一緒になった。三河から毎夏、東三河の高校生と一緒に三泊四泊の清掃活動や仮設住宅を慰問している。今回は初めて被災地の高校生を東三河に招き、高校生同士、子どもだらうと怒られた。洗濯や掃除など、対談後、気仙沼市在住のシンガー・ソングライター熊谷育美さん(いづみ)のピアノ弾き語りがあり、大津波が、住み慣れた街をのみ込んでいく現実を、未来に向かう若者たちが目を当たらしめた東陵を会場の五百三十人で歌い響き、津波が押し寄せる光景は鮮明で、「友達や近所の人の安否ばかりが気になった。」

特に困ったのは食事。持ち合わせていたわずかのお金で、高台に残った商店で食料を買ったり、流れ着いた泥だらけの缶詰を川の水で洗って食べたり。「自分のことで精いっぱい、人のことが気にかかれず、いろいろが募った」と振り返る。東陵高校三年の菊田千...

東三河の高校生の被災地訪問 豊橋東ロータリークラブが2013年夏から実施。2度の訪問を通じ、「同年代同士、もっと交流を深めたい」との声が上がり、クラブの20周年記念事業として、今年、初めて気仙沼市の高校生10人を招いた。28日に東三河入りし、豊橋市青少年センターで東三河の高校生20人と寝食を共に。29日は市内のホテルに宿泊し、30日にバスで気仙沼市に戻る。東三河の高校生110人も同行して被災地入りし、3泊4日で海岸清掃や植樹、仮設住宅を訪ねる。

建物へ」と呼び掛けた。一方、東三河の高校生。豊橋中央高校(豊橋市)二年の中村和さん(わづか)は毎月、豊橋駅前前募金活動に参加してき